

肌のうるおいを保ちながら、メイクをしっかり落とす 「選択洗浄クレンジング技術」を開発

ポーラ・オルビスグループのポーラ化成工業株式会社（本社：神奈川県横浜市、社長：三浦卓士）は、肌のうるおいに必要な成分は残す一方、メイクはしっかり落とす「選択洗浄クレンジング技術」を開発しました。この技術は、従来のクレンジングでは困難だった“メイク落ちの良さ”と“肌のうるおいの保持”を両立でき、クレンジング化粧品の使用満足度を高めることが期待されます。

この成果は、ポーラ・オルビスグループの株式会社ポーラから今秋発売される化粧品に活用される予定です。

開発の背景

近年、メイク品は、ウォータープルーフ機能が強化され落としにくくなっています。そのため、メイクをすっきり落としたいという要望が寄せられ、メイク落とし効果の高いクレンジング製剤が発売されています。一方、メイク落とし効果の高いクレンジングは肌のうるおい成分も落としてしまうため、結果として肌がカサつくという新たな問題が発生することも分かってきました。

ポーラ化成工業では、この問題を解決するため 肌のうるおい成分は残しながら、肌に不要なメイクだけを選択的に落とすという「選択洗浄クレンジング技術」の開発を目指しました。

選択洗浄クレンジング技術の開発

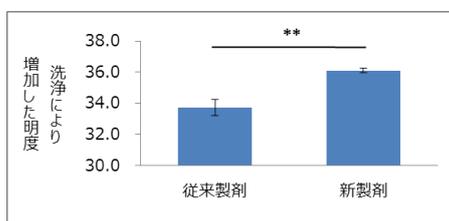
従来のクレンジング製剤では、メイク品の油分や顔料を溶かしだす上で相性のよい油剤を増やすことでメイク落とし効果を高めてきましたが、これらの油剤は肌のうるおい成分である角層細胞間脂質も一緒に落としてしまいます。

今回、ウォータープルーフ機能をもつメイク品には、被膜剤が多く含まれていることに着目し、被膜剤を優先して分散・溶解しやすい素材を用いることで、肌のうるおい成分は残しつつ、メイク落とし効果の高いクレンジング製剤を開発できると考えました。そのような機能を有する素材を探索した結果、「PPG-24グリセレス-24」を見出し、肌のうるおいに必要な成分は残しながら、メイク汚れだけを選択的に落とすという「選択洗浄クレンジング技術」の開発に成功しました。

選択洗浄クレンジング技術の効果

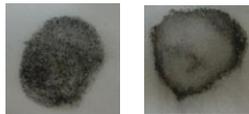
従来製剤と比較し、新製剤は ①メイク落とし効果が高く（図1・画像）、②クレンジング後の肌におけるコレステロール（角層細胞間脂質成分のひとつ）残量が多い（図2）、すなわち選択洗浄が実現されていることを確認しました。

図1 メイク落とし評価



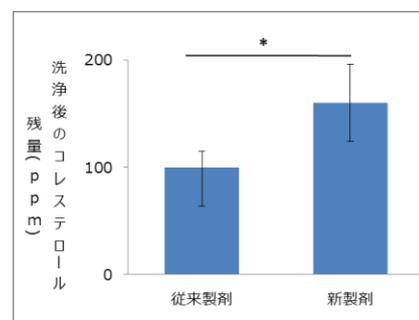
n=5, mean±SD, **:p<0.01, t検定

クレンジング後の
メイク残り比較画像
(左:従来製剤、右:新製剤)



評価法:人工皮革に塗布した黒色アイライナーの洗浄後の残量を明度(L*値)の差にて評価 ※洗浄により増加した明度が高い=メイク落とし効果が高い

図2 クレンジング後のコレステロール残量評価



n=5, mean±SD, *:p<0.05, t検定

評価法:人工皮革上に塗布したコレステロールの洗浄後の残量にて評価